

領 域	専門分野Ⅱ	対象学年	2年	開講時期	前期
科 目	精神看護学方法論Ⅰ	単 位（時間）	1 単位（30 時間）		
講師名 所 属	院外講師 肥前精神医療センター 医師 院外講師 肥前精神医療センター 医師 院外講師 肥前精神医療センター 医師 院外講師 福岡女学院看護大学 准教授 鳥井 太貴 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年				
科目目標： 1. 精神に障がいをもっている対象の病態、症状、検査、治療について理解できる 2. 精神に障がいをもっている対象のリハビリテーションについて理解できる					
授業概要： 精神障がいの症状、診断、検査、治療、精神障がい者のリハビリテーションについて体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している方々の精神科看護実践の基礎となる考え方や態度を養うことを目的としている科目である。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	1. 精神障がいの理解 2. 精神障がい者の理解と考え方	講義	鳥井 太貴		
2～5	3. 精神症状の理解 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 5) 意識の障害 6) 局在症状 4. 精神障がいの診断と検査	講義	院外講師		
6～9	5. 精神障がいの診断と分類 1) 診断と疾病分類 2) 統合失調症 3) 気分（感情）障害 4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 6) パーソナリティ障害 7) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 8) 知的障害・精神遅滞 9) 心理的発達障害 10) 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 11) 心身症	講義	院外講師		
10～11	6. 精神障がいの治療法 1) 薬物療法 2) 電気けいれん療法（ECT） 3) 精神療法 ①精神療法における患者－治療者関係 ②精神療法の種類	講義	院外講師		

12～15	<p>7. 精神障がい者のリハビリテーション</p> <p>1) 社会復帰・社会参加</p> <p>2) 保健医療福祉に関する資源の活用と調整</p> <p>3) 社会資源の活用とケアマネジメント</p> <p>4) 人的資源の活用と調整</p>	講義	院外講師
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院.</p>			
<p>参考文献</p> <p>1. 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 南江堂.</p> <p>2. パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社.</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験（別紙評価計画参照）</p>			

領域	専門分野Ⅱ	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	精神看護学方法論Ⅱ	単位(時間)	2単位(45時間)		
講師名 所属	光石 雅 肥前精神医療センター 看護師 徳永 隆晃 肥前精神医療センター 看護師 酒井 伸吾 肥前精神医療センター 看護師 森 啓訓 友朋会 嬉野温泉病院 芸術療法士 鳥井 太貴 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年				
科目目標： 1. 患者看護の基本となる接触の技術、患者一看護師関係について理解できる 2. 入院生活上の問題と援助について理解できる 3. 患者家族の心理や負担とその援助の方法が理解できる 4. 患者のおもな症状の特徴とそれに対する看護について理解できる 5. 診察・検査および治療に伴う援助や指導について理解できる					
授業概要： 本科目では、精神看護学方法論Ⅰで学んだ知識をもとに、精神疾患を有する人、また精神的困難を持つ人の状態を理解できる能力を養う。グループワークでは、グループ内でのディスカッションや教員からのフィードバックを受け、多角的にアセスメントをおこない、ケアプランを立案できる能力を養う。精神科領域のみならず、他領域においても、看護に活かすことができるアセスメントやケアの方法を習得することを目指す。また精神科リハビリテーション施設見学や実際に沿った精神療法を学ぶ機会を通じて、精神疾患患者の社会復帰に関しても考えを深められることを目的としている。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～5	1. 患者看護の基本 2. 患者一看護師関係の理解 1) かかわりの意味 2) 人間関係的技術の理解 3) 精神科における観察と記録の特徴 4) プロセスレコード演習	講義・演習	光石 雅		
6～8	3. 病棟環境・病室環境の調整 4. 入院生活上の問題とケアの視点 5. 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム 6. 患者家族の理解とその援助	講義	鳥井 太貴		
9～12	7. おもな症状に対する看護 8. 診察・検査および治療に伴う看護 1) 診察・検査に伴う看護 2) 薬物療法に伴う看護 3) 精神療法を受ける患者の看護 4) セルフケアの援助	講義	徳永 隆晃		

13～15	<p>9. 精神障がい者の看護</p> <p>1) 気分障害患者の看護</p> <p>2) アルコール・薬物依存患者の看護</p> <p>3) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害患者の看護</p> <p>4) 統合失調症患者の看護</p>	講義	酒井 伸吾
16～17	<p>10. 精神に障がいのある患者の看護過程展開</p> <p>1) 必要な情報とアセスメントの視点</p> <p>2) 患者の体験していること、健康な精神活動、受けている治療が、日常生活・行動・対人関係・身体に与える影響</p> <p>3) セルフケア維持・向上への援助</p>	講義・演習	鳥井 太貴
18～20	<p>11. 精神障がい者のリハビリテーション看護の実際</p> <p>1) 看護の実際</p> <p>2) 退院支援</p> <p>3) 地域連携・継続ケア</p> <p>4) 社会資源の活用の実際</p>	講義 施設見学	鳥井 太貴
21～22	<p>12. 精神障がいの治療法の実際</p> <p>1) 芸術療法の目的と効果</p> <p>2) 芸術療法の指導上の注意</p> <p>3) 作業療法と指導上の注意</p> <p>4) レクリエーション療法と指導上の注意</p>	講義	森 啓訓
23	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院.
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院.

参考文献

1. 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 南江堂.
2. パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社.

評価方法

筆記試験（別紙評価計画参照）

領 域	専門分野Ⅱ 精神看護学	対象学年	3年	開講時期	前期				
科 目	精神看護学実習	単 位 (時間)	2単位 (90時間)						
講 師 名	鳥井 太貴								
所 属	嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師9年								
<p>実習目的・目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患を持つ人を全人的に理解でき、必要な看護計画を立案し、実践と評価ができる 2. 看護実践を通して、かかわりの中で生じたことを振り返り、患者-看護師関係における相互作用について洞察を深める 3. 精神科病院で行われている医療チームの活動に参加し、患者を支える様々な専門職の役割や機能について理解し、チームにおける看護の役割と連携・協働のあり方について理解を深める 									
<p>授業概要：</p> <p>本実習では、精神疾患および精神障がいと共に生きる「人」としての存在を身体的・精神的・社会的視点から理解し、地域資源を活用して支援する方法を理解する。その上で対象者がその人らしく生きるために必要な精神看護の基礎的な実践能力を養う。その際、実際のコミュニケーションや患者の反応を通して情報を得る力や自己洞察を深めるために、看護実践後の振り返りに重点を置き学習を進めていく。さらに看護実践モデルとしての指導者の実践をから看護の根拠や意図を学び、対象の背景を含めた情報収集や支援のあり方について理解を深める。また全病棟参加の合同カンファレンスを通して、病棟ごとの特徴的な疾患・看護についての学びを広げるとともに、精神看護の基本的な態度や権利擁護についても意識を高められるよう企画・運営していく。</p> <p>実習に繋がる科目としては「精神看護学方法論Ⅱ」にて精神科リハビリテーション施設を実際に見学し、多様化している精神疾患の現状と社会復帰支援のあり方を体験してきている。履修済みの疾患の特徴と共に想起し、患者-看護師関係の形成や看護実践の個別性の創造に活用していく。</p>									
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目 標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 精神に障害をもつ対象の生きづらさが理解できる</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発症要因・病歴 (2) 対象の病状や障がいの段階 (3) 対象の精神状態 (4) 対象の成長発達の状況 (5) 患者自身の主体的体験から考えられる影響・思い (6) 対象が捉えている自身のストレングス・レジリエンス (7) 対象が大切にしていること、関心事 (8) 対象の家族の関係性 (家族以外の支援者を含む) (9) 対象のセルフケアの状況 (10) 対象に行われている日常生活援助の心身に与える影響 </td> </tr> </tbody> </table>						目 標	実習内容	1) 精神に障害をもつ対象の生きづらさが理解できる	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発症要因・病歴 (2) 対象の病状や障がいの段階 (3) 対象の精神状態 (4) 対象の成長発達の状況 (5) 患者自身の主体的体験から考えられる影響・思い (6) 対象が捉えている自身のストレングス・レジリエンス (7) 対象が大切にしていること、関心事 (8) 対象の家族の関係性 (家族以外の支援者を含む) (9) 対象のセルフケアの状況 (10) 対象に行われている日常生活援助の心身に与える影響
目 標	実習内容								
1) 精神に障害をもつ対象の生きづらさが理解できる	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発症要因・病歴 (2) 対象の病状や障がいの段階 (3) 対象の精神状態 (4) 対象の成長発達の状況 (5) 患者自身の主体的体験から考えられる影響・思い (6) 対象が捉えている自身のストレングス・レジリエンス (7) 対象が大切にしていること、関心事 (8) 対象の家族の関係性 (家族以外の支援者を含む) (9) 対象のセルフケアの状況 (10) 対象に行われている日常生活援助の心身に与える影響 								

	<ul style="list-style-type: none"> (11) 薬物療法の作用・目的 (12) 精神療法の作用・目的 (13) 電気痙攣療法の作用・目的 (14) 対象が検査・治療に対して持っている捉え方
2) 精神に障がいを持つ対象の QOL に応じた援助が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> (1) 患者との関係成立に向けた関わり (2) 治療的コミュニケーション (3) 対象の言動の意味 (4) 自己の言動が対象に及ぼす影響 (5) 医療福祉チームとの連携 (6) 対人関係の調整 (7) ストレングス・レジリエンスへの着目 (8) 安全を守るための環境調整 (9) 精神状態に応じた関わり (10) セルフケアの状況に合わせた援助の実際や援助方法の工夫 (11) 対象に影響を与えている要因と援助の評価
3) 患者の人権・権利を尊重できる	<ul style="list-style-type: none"> (1) インフォームドコンセント (2) 自己決定の尊重 (3) 人権擁護、個人の尊厳を配慮した言動 (4) 病棟の特殊性を踏まえた言動 (5) 個人情報の保護

詳細は実習要項参照

2) 実習施設

独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

履修条件

専門分野の単位認定ができていない学科科目がある場合は、関係する実習の履修ができないことがある。

参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院.
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院.
3. 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 南江堂.
4. パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社.
5. 精神科看護ケア関連図 川野雅資 中央法規出版.
6. 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子 医歯薬出版.
7. IPS ハンドブック 働くこととリカバリー 中原さとみ クリエイツかもがわ.
8. 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)
<https://seishinhoken.jp/profile>

評価方法：

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)